

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

| | |
|----------------------------|---|
| 事業課題名 | 移民に対する学習支援とフィリピン派遣 |
| 代表者名 | 安里和晃 |
| 事業概要 (600 字程度) | <p>本事業は、授業＋学習支援ボランティア＋フィリピン研修の3つの柱から構成される。フィリピン研修は、前者2つを経験することの上に成り立っている。学習支援ボランティアでは、フィリピン系児童・生徒の通う小中学校に学生ボランティアを派遣し、日本語支援や学習支援をおこない、多文化の抱えるさまざまな問題に直面してもらう。そして、教育面におけるそうした問題が、単に学習の遅れにより生じているのではなく、貧困要因、移動要因、社会環境要因、家族要因、生物学的要因といった多様な要因に起因することを理解する。学習支援を通じて得られたこうした経験を授業のなかでまとめ、フィリピン研修において、フィリピン政府在外フィリピン人委員会に対してフィードバックをおこなう。同委員会は日本向け移民に対する渡航前研修を実施しているが、このフィードバックは、これから来日する人々に重要な示唆を与えることになる。</p> <p>なおフィリピン研修では、英語で数回のプレゼンテーションを実施し、質的インタビュー調査も実施する。さらに、フィリピン大学アジアセンターでディスカッションもおこなうことから、英語の実践面を鍛えることができる。</p> |
| 成果の概要 (800 字程度) | <p>今回は準備段階において多くの方の協力を得ながら進めることができたため、より充実した研修ができた。日本における多文化の状況について、授業を通じた座学のみならず、学習支援という現場において体感できる点が特徴的だが、学習支援のボランティアに参加したのも10名を超えた。より多くの学生が多文化の重みを感じ、地域の学習支援という地域活動に参加できたという点で成果を残したといえる。具体的には現在の人の移動がどのような特徴を持っているのか、そしてそのなかでどのように人々は生き抜こうとしているのか。移民が置かれた状況や教育制度、社会統合政策について、より広い視点で考えることができた。学習支援の学生については、フィールドノートとしての機能を兼ねた学習支援レポートの提出とそのフィードバック、グループディスカッションの実施を通じ、多様なルーツを持つ児童・生徒に関する理解を深めてきた。こうしたボランティアでの経験や知見を総括し、例年通りフィリピン政府でその成果発表をおこなった。これは、成果発表であると同時に、(日本向け)フィリピン人移民に対する渡航前研修の実施であり、政府のカウンセラーに対する報告でもある。研修中は英語で数回のプレゼンテーションを実施し、質的インタビュー調査も実施した。その際の訪問先として、エンターテイナーの斡旋業者、雇用主などがあり、さらにJFCの親子に対するインタビュー、技能実習を実施する斡旋業者からも聞き取りを行った。さらに、フィリピン大学アジアセンターでは大学院生とディスカッションもおこなった。こうした取り組みは、英語の実践面を鍛えるという副次的な意味もある。これまでの研修参加者の中から、2016年度は、文科省に2名、JICAに1名が就職しており、3つの柱からなる事業の持つ意義が成果として現れたものといえるであろう。</p> |